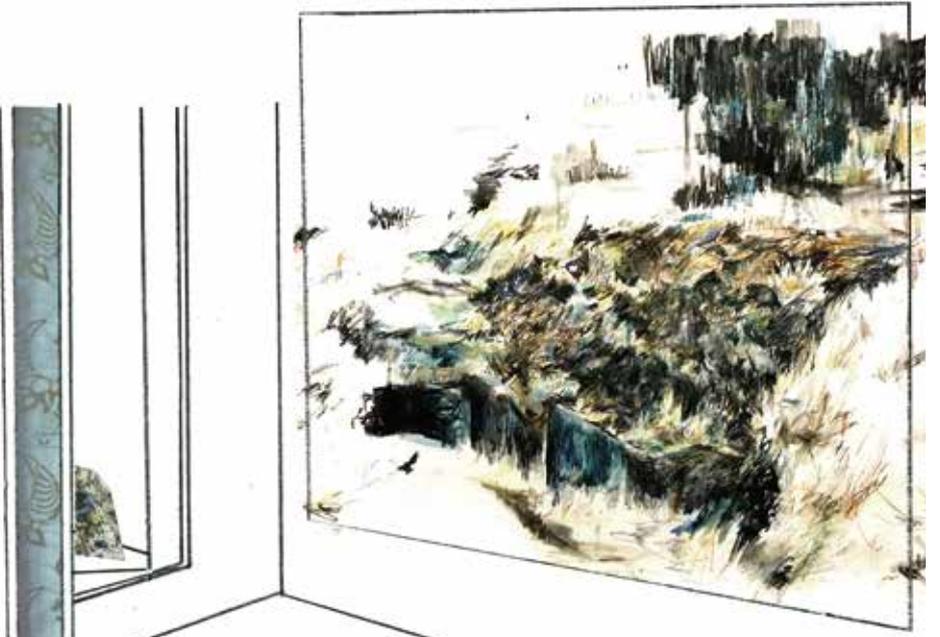


若手アーティスト支援プログラム Voyage
かんのさゆり・菊池聡太朗展

風景の

練

羽
白



Practicing Landscape

2021.2.6 [土] - 3.28 [日]

塩竈市杉村惇美術館

開館時間 10時～17時 (最終受付 16時30分)

宮城県塩竈市本町 8-1 / 022-362-2555

主催：塩竈市杉村惇美術館 共催：塩竈市
助成：公益財団法人カメイ社会教育振興財団（仙台市）
後援：河北新報社 朝日新聞仙台総局 毎日新聞仙台支局 読売新聞東北総局
TBC東北放送 仙台放送 ミヤギテレビ KHB東日本放送
エフエム仙台 BAYWAVE78.1FM ケーブルテレビマリネット
仙台リビング新聞社

上：かんのさゆり《New Standard Landscape》 下：菊池聡太朗《風景の練習のためのコラージュ》

6回目を数える今回は、公募により選考された写真家・かんのさゆり、建築／美術作家・菊池聡太郎のお二人をご紹介します。

かんのは、今では誰もが手軽に撮影できるデジタルカメラを用いて大学在学中の2000年代初頭から写真作品を制作しはじめ、現代日本の都市空間の奇妙さとその中で生きる人々の光景を主なテーマとしています。今回の展示では自らの暮らす地方の住宅地への視点を中心に、震災後各地で続く復旧・復興工事や、宮城県内の沿岸部や内陸に広がる風景を撮影し続けています。刻々と移り変わっていく風景の変貌を見つめ、記録し続けるかんのならではの鋭い視点から生まれる作品は、常に対象の表面を鮮明にとらえようと試み、風景からこの時代の心性と人々の動向までを映し出そうとしています。

菊池は主に風景のドローイングや石・木などの立体物、建築素材を用いて、作品・空間との出会い方や経験を変化させるようなインスタレーションに取り組んでいます。菊池は2018年に、留学先のインドネシアの古都ジョグジャカルタで、即興的な増改築が繰り返されている、とある家に出会います。設計者の死後も、そこに住み、活動する人によって手が加えられる特異な内部空間を持つ家で、その空間性や変容の痕跡を記録するフィールドワークを行いました。そうした観察を通して作品を制作し、一見閉じられた室内の風景や個人的な経験をその外側の空間や社会へ広げ、繋ごうとする立体的な表現の試みを重ねています。

本展のような一定期間しか開かれぬ展示自体もまた仮設の空間であり、様々なことを試み、実践する練習の場でもあります。

本展では、かんのによる、仙台近郊や石巻、閑上、女川などの沿岸地域で撮影したここ数年で現れた風景、新しい住宅地を中心とした写真作品と、菊池による日本から6,000km離れたとある家についての考察に、塩竈やその周辺地域を訪ね歩き出会った素材を加えたインスタレーションを、「風景の練習」というテーマのもとに構成し展示いたします。

戦後の公民館としての歴史を持つ、塩竈市杉村惇美術館という場所性への新たなアプローチを模索した今回の二人の表現から、先行きの不透明なこの時代において、現在、そしてこれからの「風景」についてともに思いをめぐらせ、学ぶ機会になれば幸いです。

かんのさゆり

写真家。1979年宮城県生まれ、仙台市在住。2002年東北芸術工科大学デザイン工学部情報デザイン学科映像コース（現映像学科）卒業。

【個展】2019年 仙台写真月間「New-Standard Mixture」(SARP 仙台アーティストランプレイス)

【グループ展】2015年「“写真の使用法—新たな批評性へ向けて”」(東京工芸大学中野キャンパス3号館ギャラリー／東京)ほか

【受賞】「第22回、第27回写真ひとつば展」入選
写真サイト「白い密集」<http://sayurikanno.com>



菊池聡太郎 (きくち そうたろう)

建築／美術作家。1993年岩手県生まれ、宮城県仙台市在住。2017-2018年にインドネシア共和国ガジャマダ大学へ留学。2019年東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻修了。

【個展】2017年「家事」、2019年「喫茶荒地」（いずれも Gallery TURNAROUND／宮城）ほか

【グループ展】2017年「相転移／phase transition」(KUGURU／山形)、2019年「Collective Storytelling」(旧伊吹小学校教室／瀬戸内国際芸術祭 2019)ほか

【プロジェクト】2018年「NIWAINI」(ASP [Artist Support Project]／インドネシア・ジョグジャカルタ)、2020年「Polygons」(せんだいメディアアテーク／宮城／建築ダウンナーズとして)

【受賞】青葉賞（東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻 修士設計作品「記録と建築」最優秀賞）



《燃えた山》2019年（紙にオイルパステル）



「家事」2017年 展示風景

展示観覧料（常設展＋企画展）：

一般 500 円 大学生・高校生 400 円

メンバーシップ・中学生以下無料

※各種障がい者手帳を提示された方は割引。団体割引有。

関連企画

若手アーティストによる参加型体験プログラム Voyage

主催：Voyage 実行委員会 助成：(公財)宮城県文化振興財団

プレ企画「クロストーク」

五十嵐太郎 ×

かんのさゆり × 菊池聡太郎

展覧会開催に向けて、五十嵐太郎氏（東北大学大学院教授・建築史家・建築批評家）をお招きして行われたクロストーク。両作家の展示作品やテーマについて五十嵐氏の視点からご覧いただき、建築と写真について語り合いました。ホームページでご覧いただけます。

ギャラリートーク

かんのさゆり・菊池聡太郎

2021/2/13 [土] 14 時 企画展示室

定員：15 名／要予約

展示観覧料でご参加いただけます。

クロストーク

畠山直哉 ×

かんのさゆり × 菊池聡太郎

都市や自然に写真を通して向き合い続ける畠山直哉氏（写真家）をお招きし、刻々と移り変わっていく現代の風景について語り合います。

※日時詳細は決まり次第、ホームページにてご案内します。

風景について考えてみるイベント「歩行」

2021/2/23 [火祝] 13 時 30 分（3 時間程度）

参加費：1,000 円（材料費、展示観覧券付）

※展示観覧券は会期中いつでもご覧いただけます。

定員：15 名／要予約

出展作家とともに視点を共有しながら塩竈を歩き、そこで出会った素材をもとに風景について考えてみます。

若手アーティスト支援プログラム「Voyage」とは、これからの活躍が期待される若手アーティストの可能性に光をあて、新たなステップを提供することを目的に、展覧会を中心としてトークやワークショップなど多様な表現の機会を設ける事業です。これまで、多くの人々にとって新たな才能や感性と出会える場となるよう毎年度ごとに異なる作家と共に取り組んできました。展示制作にかかる費用の一部のほか、企画や広報などに関する支援を通して、地元ゆかりのある若手アーティストの意欲的な表現活動をサポートし、発表の場を提供します。今年度の特別審査員は、藤浩志氏（美術家・秋田公立美術大学大学院教授）、三瀬夏之介氏（日本画家・東北芸術工科大学教授）、和田浩一氏（宮城県美術館学芸員）です。

問合せ・申込み／塩竈市杉村惇美術館

宮城県塩竈市本町 8-1

電話 022-362-2555



本企画は手指の消毒や換気、三密を避けるなど、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策をして行います。また、ご来館の方にはマスクの着用をお願いしています。今後の状況次第ではオンラインでの実施など、内容が変更になる場合があります。変更がある場合は当館ホームページ、SNS等でお知らせいたします。